



令和5年度 第1回

学校運営協議会



日時：5月23日（火） 14：00～16：00

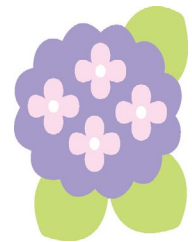
会場：花川小学校会議室

< 次第 >

- 1 授業参観
- 2 開会の言葉
- 3 挨拶（校長）
- 4 任命書の伝達
- 5 会長の選出及び副会長の指名
- 6 議長の選出
- 7 熟議
 - ・令和5年度学校運営に関する基本的な方針の確認について（校長）
 - ・いじめ防止等のための基本方針について（教頭）
- 8 報告
 - ・学校支援活動について（学校支援コーディネーター）
- 9 その他
 - ・夢育やらまいかCS加算分についての意見書について（教頭）
- 10 閉会の言葉

今後の主な学校行事予定

- | | | |
|-----------|------------|---------------|
| 6月14日（水） | 学校公開日 | 家庭教育講座（情報モラル） |
| 8月8日（火） | 第2回学校運営協議会 | |
| 9月30日（土） | 幼小合同運動会 | |
| 10月18日（水） | 学校公開日 | 家庭教育講座 |
| 10月26日（木） | 第3回学校運営協議会 | |
| 11月22日（水） | 夢いっぱい発表会 | |
| 2月16日（金） | 学校公開日 | 懇談会 |
| 2月20日（火） | 第4回学校運営協議会 | |



浜松市立花川小学校



学校教育目標

しなやかに たくましく 生きる子

目指す学校像

花と緑と笑顔に包まれて みんなが幸せな学校

主体的に学び、課題を解決する子

- ★課題にいとむ力（課題対応能力）
- ★未来につなげる力（キャリアプランニング能力）

知

- 付けたい力を明確にした単元構想と振り返り
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善
- キャリア教育の推進（総合・生活科を中核教科横断的な学習）
- 地域の材や外部人材の活用

やる気いっぱい

学ぶ楽しさが分かり、しっかり勉強する子

- ★自分を見つめる力（自己理解・自己管理能力）
- ★未来につなげる力（キャリアプランニング能力）

- 魅力ある授業の工夫
- 学習内容の確実な定着
- 学びの場づくり
- 情報活用能力の育成(ICT活用)
- 読書活動の推進

◆花川の子の実態

- ・明るく素直な子が多く、学年の枠を超えてみんな仲よし
- ・目標に向かってねばり強く取り組むことが苦手
- ◆開成中学校区で目指す子供の姿
 - ・正しい判断ができる人
 - ・地域を愛する人
 - ・自分や周りの人を大切にする人

礼儀正しい子

- ★自分を見つめる力（自己理解・自己管理能力）
- ★人とかかわる力（人間関係・社会形成能力）

- はままつマナーの活用
- 凡事徹底
- キャリアパスポートの活用

生きる力 キャリア教育

やさしさいっぱい

徳

命を大切に、健康で安全な生活ができる子

- ★自分を見つめる力（自己理解・自己管理能力）

- 命の大切さを伝える
- 健康的な生活指導

元気いっぱい

- 外遊びの奨励
- 体力アップを目指す活動の充実(体育科と体力アップの時間を連動)

体

目標に向かってねばり強く挑戦する子

- ★自分を見つめる力（自己理解・自己管理能力）
- ★課題にいとむ力（課題対応能力）

仲間を大切にする子

- ★人とかかわる力（人間関係・社会形成能力）

- 良好な人間関係の構築
- イトコメガネの深化
- 縦割り活動の充実
- 視特校、幼保との交流活動

コミュニティ・スクール

(学校運営協議会)

「不易と流行」の見極め

教職員にとって

働きやすい学校

小規模校のよさ・魅力を生かした特色ある学校

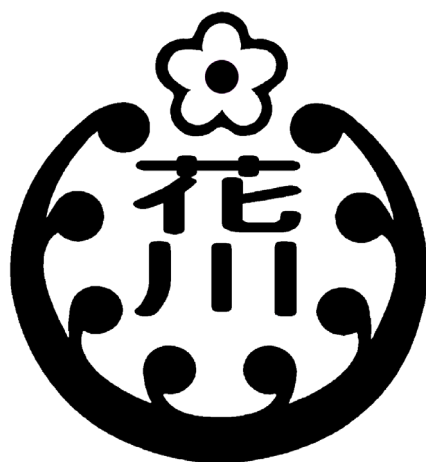
発達支援教育の理念に基づいた児童理解

- ・一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導
- ・小規模特認校

- ・学校経営方針の承認
- ・学校支援(学習、教育環境、安全、図書ボランティア)
 - ※地域の材の活用
- ・CSの理念や活動内容の発信

- ・整った教育環境
- ・働き方改革の推進
- ・ワークライフバランスの実現
- ・チームワークが良く、風通しの良い職員室

浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針



令和5年4月

浜松市立花川小学校

浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針 目次

第1	いじめの防止等のための基本的な考え方	4
1	いじめの定義	4
2	いじめの理解	4
3	いじめの防止等に関する基本的な考え方	5
(1)	いじめの未然防止	5
(2)	いじめの早期発見	5
(3)	いじめへの対処	6
(4)	地域や家庭との連携	6
(5)	関係機関との連携	6
第2	いじめの防止等のための対策	6
1	いじめの防止等のための組織	6
(1)	「校内いじめ対策委員会」の組織と役割	6
(2)	いじめの防止等における教職員の役割	7
2	いじめの防止等に関する取組	8
(1)	花川小年間指導計画	8
(2)	いじめの未然防止	9
(3)	いじめの早期発見	10
(4)	いじめに対する措置	11
(5)	関係機関との連携	12
(6)	学校における教育相談体制の整備	12
(7)	教職員の資質向上のための研修会や校内OJTの取組	12
(8)	いじめが「解消している」状態	12
(9)	「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」の公表と説明、評価・見直し	13
3	地域や家庭の役割	13
(1)	地域の役割	13
(2)	家庭の役割	13

第3 重大事態への対処.....	14
1 重大事態の意味.....	14
(1)生命心身財産重大事態.....	14
(2)不登校重大事態.....	14
(3)子供や保護者からの申立て.....	14
2 重大事態の調査組織.....	14
3 事実関係を明確にするための調査の実施.....	14
4 調査結果の提供及び報告.....	14
5 その他の留意事項.....	15

第1 いじめの防止等のための基本的な考え方

いじめは、人権にかかわる問題であり、命の尊厳にかかわる問題です。どのような理由があろうと決して許される行為ではありません。また、子供の世界は社会を映す鏡とも言われます。いじめの問題は、安全・安心な社会をいかにしてつくるかという、学校を含めた社会全体の問題です。

1 いじめの定義

いじめとは、学校に在籍する「児童又は生徒(以下「児童等」という。)に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいいます。(いじめ防止対策推進法第2条第1項)

いじめの表れとして、以下のようなものが考えられます。

- 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- 金品をたかられる。
- 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。 等

個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、「いじめを受けた子供の立場」に立つことが必要です。また、いじめに該当するかどうかを判断する際に、「心身の苦痛を感じているもの」だけでなく、本人が気付いていなくても、その子が「いじめられている状況にないか」という視点で、トラブルも含めて周辺の状況等を客観的に確認することも必要です。けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合もあります。なお、いじめの認知は、特定の教職員のみによることなく、いじめ防止対策推進法第22条の学校のいじめ対策組織(以下「校内いじめ対策委員会」という。)を活用して行い、事案について「校内いじめ対策委員会」で情報共有をしていきます。

また、いじめの中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早急に警察に相談することが必要なものや、子供の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれます。これらについては、教育的な配慮やいじめを受けた子供の意向に配慮した上で、早期に警察に相談・通報の上、警察と連携した対応を取ります。

2 いじめの理解

- いじめは、どの子供にも、どこでも起こりうるものです。
- 嫌がらせやいじわる等の「暴力を伴わないいじめ」は、多くの子供が入れ替わりながら被害も加害も経験します。
- 「暴力を伴わないいじめ」であっても、何度も繰り返されたり多くの者から集中的に行われたりすることで、生命又は身体に重大な危険を生じさせます。
- いじめの加害・被害という二者関係だけでなく、学級や部活動等の所属集団に秩序がなかったり、所属集団が閉鎖的だったりする問題があります。

- 「観衆」としてはやし立てたり面白がったりする存在や、周辺で暗黙の了解を与えている「傍観者」の存在にも注意を払い、集団全体にいじめを許さない雰囲気生まれるようにする必要があります。

3 いじめの防止等に関する基本的な考え方

いじめについては、全ての子供を対象とした対応が求められます。

いじめが起きているとき、いじめを受けている子供の心や体が傷ついています。周囲にいる人々の心が傷つくこともあります。いじめという行為は許されませんが、不安や悩みからいじめを行ってしまう子供や、いじめを行ったことで後悔や罪悪感を抱き、傷つく子供もいます。また、いじめを行った子供といじめを受けた子供が入れ替わってしまうこともあります。いじめが深刻になればなるほど、その解消は難しくなります。集団が荒れている雰囲気をもっているときには、いじめに気付かない場合も生まれます。

いじめの未然防止には、いじめが起こらない人間関係を構築していくことが求められます。子供を取り巻く大人が一丸となって、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、いじめを許さない、いじめに立ち向かう子供を育てていきます。

また、いじめはできるだけ早期に発見し、適切に対応することが重要です。学校は地域や家庭と一体となって、子供の健やかな成長を見守り、いじめを認知した場合は、協力して一刻も早い解消に向けて取り組んでいきます。

(1)いじめの未然防止

全ての子供を、いじめに向かわせることなく、心の通う対人関係を構築できる社会性のある大人へと育み、いじめを生まない土壌をつくるために、また、いじめに立ち向かう勇気を持ち、規範意識のある大人へと育むために、学校は教育活動全体を通じ、以下のことに取り組みます。

- 全ての子供に「いじめは決して許されない」ことへの理解を促し、子供の豊かな情操や道徳心、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重し合える態度など、心の通う人間関係の素地を養う。
- いじめの背景にあるストレス等の要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力を育む。
- 全ての子供が安心でき、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりを行う。
- いじめの問題への取組の重要性について家庭や地域にも認識を広め、家庭、地域と一体となって取組を推進するための普及啓発に努める。

(2)いじめの早期発見

いじめの早期発見は、いじめへの迅速な対処の前提です。いじめの早期発見のためには、本人の訴え、教職員の気付き・発見、周囲の子供たちや家庭、地域からの情報の受け止めが重要です。

子供たちがSOSを発信できるようにすること、いじめのサイン(子供たちからのSOS)は、いじめを受けている子供からも、いじめを行っている子供からも出ていることを教職員が認識し、サインに気付けるようにすること、そのどちらも必要です。いじめはどの子供にも、どこでも起こりうるものであるとの観点から、学校、地域、家庭が一体となって子供を見守る体制を整え、子供のささいな変化に気付く力を高め、早期発見に努めます。

- 子供を取り巻く大人が、いじめは大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることを認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく積極的にいじめを認知する。

- 学校は、定期的なアンケート調査や教育相談の実施、相談窓口の周知等により、子供がいじめを訴えやすい体制を整え、訴えは真摯に受け止める。
- 学校は、地域、家庭と連携して、子供を見守る。

(3) いじめへの対処

教職員は平素より、いじめを把握した場合の対処の在り方について、理解を深め、具体的な対応方針やいじめを受けた子供への支援・いじめを行った子供や周囲の子供への指導計画を立てたり、体制を整備したりします。そして、いじめを確認した場合、学校は次のように対応します。

- ①直ちにいじめを受けた子供やいじめを知らせてきた子供の安全を確保し、詳細を確認した上で、いじめを行ったとされる子供から事情を確認し、適切に指導する等組織的な対応を行う。
- ②家庭や教育委員会へ連絡・相談するとともに、事案に応じ関係機関と連携する。
- ③子供の「健やかな成長」を願って支援・指導する。
- ④「校内いじめ対策委員会」を中心に、事案への対応について未然防止、早期発見、早期対応の視点から点検し、成果と課題を明らかにする。
- ⑤明らかになった課題について、未然防止、早期発見、早期対応の視点から改善策を立てる。

(4) 地域や家庭との連携

社会総がかりで子供を見守り、健やかな成長を促すため、例えば、以下のような取組を通して、学校と地域、家庭が連携した対策を推進します。

- PTAや地域の関係団体等と学校がいじめの問題について協議する機会や保護者がいじめについて学ぶ機会を設ける。
- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)制度を活用する。
- より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにするため、学校と地域、家庭が組織的に連携・協働する体制を構築する。

(5) 関係機関との連携

いじめの問題への対応において、学校は、教育委員会やその他の関係機関(警察、児童相談所、医療機関、法務局等の人権擁護機関など)と平素から情報共有体制を構築し、適切に連携します。また、学校以外の相談窓口として、教育総合支援センター、少年サポートセンターや法務局等について、子供や保護者に周知します。

第2 いじめの防止等のための対策

いじめの防止等のため、「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」に基づき、「校内いじめ対策委員会」を設置し、これを中核として、「校内いじめ対策委員会」の委員長である校長の強力なリーダーシップの下、一致協力体制を確立し、教育委員会とも適切に連携の上、対策を推進します。

1 いじめの防止等のための組織

(1) 「校内いじめ対策委員会」の組織と役割

- 委員長は校長とし、校長のリーダーシップの下、協力体制を確立する。
- 参画する教職員等
 - ・校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、いじめ対策コーディネーター、学級担任、養護教諭

- ・必要に応じて、発達支援コーディネーター、教科担任、その他教育活動の指導に関わる教職員等を参加させたり、専門的な知識を有するスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部専門家（警察官経験者）等を参画させたりする。
 - ・個々のいじめの防止、早期発見・対処にあたって関係の深い教職員を追加する。
- 4月、6月、11月、2月に定期的開催するとともに、いじめと疑われる事案が発生した際には、随時開催する。毎回会議録を残し、会議録は5年間保存する。
- 学校が組織的かつ実効的にいじめの問題に取り組むに当たり中核となる役割を担う。
- いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する重大事態の調査のための組織について、学校がその調査を行う場合は、母体となる。事案の性質に応じて適切な専門家を加えるなどの方法によって対応する。

(2)いじめの防止等における教職員の役割

①いじめ対策コーディネーターの設置と役割

校長は、学校におけるいじめの防止等の対策を推進するリーダーとして「いじめ対策コーディネーター」を校務分掌に位置付けます。いじめ対策コーディネーターは、校長の指導・助言を受け、会議などの企画・運営を行うとともに、以下の役割を果たし、対応を行います。

- ア いじめに関する情報収集、学校全体の実態把握の役割
- イ 保護者・地域・関係機関との連携の窓口としての役割
- ウ いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに資する指導を推進する役割
- エ 校内研修の企画・運営する役割

②教職員の役割

- ア 校長 : 「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が組織的かつ実効的に機能するよう措置を講ずる。
- イ 教頭 : 校長を助け、指示を受けて、いじめ問題への対応をリードしたり、教職員の相談に乗ったりする。
- ウ 教務主任 : いじめの防止等の対策について教育課程に位置付けたり、教職員の相談に乗ったりする。
- エ 生徒指導主任 : いじめ対策コーディネーターと連携して、いじめ事案の報告の窓口と集約を担ったり、いじめ問題への対応の中心となったりする。
- オ 学級担任 : 児童の表れを注視し、学級全体の実態を把握する。
- カ 養護教諭 : 児童の心身の健康状態を把握し、気になる表れを報告する。
- キ 教科担任・その他教育活動の指導に関わる教職員 : 児童の表れを注視し、気になる表れを報告する。
- ク 発達支援コーディネーター : 発達支援の視点から、児童の気になる表れを報告したり、他の教職員の相談に乗ったりする。
- ケ SC : 心理に関する教育相談を担う。
- コ SSW : 福祉に関する教育相談を担う。

2 いじめの防止等に関する取組

(1) 花川小年間指導計画

月	指導及び実態把握 学区の連携 等	いじめ対策委員会 教職員研修等	地域・家庭との連携
4	学級開き 視特校交流協議会	生徒指導委員会① ・基本方針の共通理解 いじめ対策委員会① ・基本方針、組織の確認 生徒指導委員会② ・児童について共通理解	教育活動説明会、 参観会、PTA総会 ・基本方針の説明 三者面談、家庭確認
5	縦割り活動・遠足 中学校区ピアサポート研修	生徒指導委員会③ ・ケース会議	学校運営協議会 クリーンウォーク、親子レク
6	命について考える月間 全校道徳 開成中学校体験入学（6年） 縦割り活動 視特校交流活動 こ幼保小交流活動	定期アンケート①、個別面談 アセス① いじめ対策委員会② ・いじめの未然防止について （伝達講習） ・定期アンケート、アセスの 結果について共通理解 花ちゃん週間	健全育成会総会、講演会 参観会、家庭教育講座
7	縦割り活動 視覚特別支援学校交流		児童民生委員と語る会 三者面談 はつらつ交流
8		開成中学校区交流研修会	学校運営協議会
9	縦割り活動 幼小縦割り活動 幼小合同運動会	生徒指導委員会④ ・ケース会議	
10	縦割り活動 こ幼保小生活科交流	生徒指導委員会⑤ ・ケース会議 花ちゃん週間	参観会、家庭教育講座 資源回収 学校運営協議会 個別面談 家族読書週間
11	縦割り活動 学校保健委員会 視特校交流活動 夢いっぱい発表会	定期アンケート②、アセス② いじめ対策委員会③ ・いじめ対策の現状について （伝達講習） ・定期アンケート、アセスの 結果について共通理解	いい声掛けデー
12	縦割り活動 学校評価		学校評価 グラウンド整備 体罰アンケート
1	縦割り活動	生徒指導委員会⑥ ・ケース会議 教育課程	
2	縦割り活動 花川小入学説明会 開成中学校入学説明会 視特校交流協議会	定期アンケート③ いじめ対策委員会④ ・定期アンケートの結果につ いて共通理解 ・いじめ防止基本方針見直し 花ちゃん週間 教育課程	参観会・懇談会 学校運営協議会
3	縦割り活動	教育課程	三者面談

◇道徳科では、「友情・信頼」「思いやり」「相互理解・寛容」「公正・公平」「感謝」を年間を通して適宜指導する。（「はままつマナー」の活用も含む。）

◇学活では「情報モラル」について、年間1回以上指導する。

◇年間を通して、キャリア・パスポートを活用して指導し、自分の成長を評価できるようにする。

(2)いじめの未然防止

学校教育目標「しなやかに たくましく 生きる子」の具現を目指し、「やる気いっぱい」「やさしさいっぱい」「元気いっぱい」を教育の基盤として、すべての教育活動を通して、「いじめが起きにくい・いじめを許さない学校づくり」に取り組みます。

○毎年6月を「いじめや命について考える月間」とし、いじめの問題や命の尊さ、人間としての尊厳について考える取組を発達段階に応じて実施する。

具体的な取組

全校道徳を通して、生きることの素晴らしさや生命の尊さ、生命のつながりについて知り、生命を尊重する態度を育む。

- 教職員の言動が、子供を傷つけたり、他の子供によるいじめを助長したりすることのないよう、また、いじめを受けた子供の心に寄り添った言動をとるよう、指導の在り方に細心の注意を払う。教職員による「いじめられる側にも問題がある」という認識や発言は、いじめを行っている子供や、周りで見えていたり、はやし立てたりする子供を容認するものにほかならず、いじめを受けている子供を孤立させ、いじめを深刻化することを十分理解する。
- 教職員の資質向上のために、事例検討等の研修を計画的に行ったり、人間関係づくりプログラムを取り入れた集団づくりの研修、人権意識を高める研修を進めたりしていく。また、情報モラル教育についての理解を深め、実践していく。
- 家庭や地域に対して、子供の様子に目を配り、いじめに関する情報を得た場合には、直ちに学校に相談するように啓発するとともに、家庭や地域等が相談しやすい信頼関係を構築する。また、浜松市の相談窓口についても、周知徹底する。
- 「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」が実効性のある方針になるように、その策定に当たっては、保護者、地域住民、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等に意見や支援を求める。
- 子供と保護者が情報の流通性、発信者の匿名性などの特性を踏まえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対処することができるように、情報モラル講座などの啓発活動を行う。
- 子供たちと共に、いじめの未然防止のために、以下のことに取り組む。

ア 子供がいじめの問題について自主的に考え、議論すること等のいじめの防止に資する活動。	
4月 年3回	学級活動での学級目標の設定 6、11、2月の「花ちゃん週間」のイトコメガネの活動を通して、自他の良い所に気付く。
イ 子供が、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業や集団づくり。	
年間 年間 4月 年間 年間 学期末	学級や学年における授業のルールについての児童の話合い 学校行事や校外学習を通じた集団作りとルールの涵養 学級活動において1年間のめあてを設定（キャリア・パスポート） 提案授業と事後研修（授業改善といじめの未然防止の関係性） 授業研究と事後研修（主体的・対話的で深い学びと自己指導能力） キャリア・パスポートによる振り返りと意思決定
ウ 子供の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う人間関係を構築する素地を養うための道徳教育の充実	
年間 年間	「はままつマナー」を活用した振り返り 「友情・信頼」「思いやり」「相互理解・寛容」「公正・公平」「感謝」を

	テーマにした道徳の授業、学校行事等の実施
エ	発達障害を含む、障害のある子供、海外から帰国した子供や外国籍の子供、国際結婚の保護者を持つ外国につながる子供、性同一性障害や性的指向・性自認・性表現に係る子供など、子供一人一人の特性や多様性に配慮した適切な指導や支援
毎月 6月	多様性の理解に向けた縦割り活動による清掃活動や学校行事の実施 「命について考える」全校道徳の実施
オ	集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、いたずらにストレスにとらわれることなく、互いを認め合える人間関係、学校・学級風土をつくるとともに、子供の社会性を育て、自己有用感を育み、自己肯定感を高める活動
毎月 年間 4月 年間	「イトコメガネ」「花ちゃん週間」の取組 「はままつマナー」を活用したマナーを守る心情の育成 構成的グループエンカウンター、ピアサポート等を用いた仲間作りの活動 「はままつマナー」を活用したふわふわ言葉・ちくちく言葉の想起

(3)いじめの早期発見

いじめはどの子供にも、どこでも起こりうるものであるとの観点から、学校、地域、家庭が一体となって子供を見守る体制を整え、子供のささいな変化に気付く力を高め、早期発見に努めます。

○いじめは、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることが多いことを教職員は認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知する。

○教職員は、何よりも「子供のちょっとした変化」に気付き、子供が何でも相談したくなるような関係づくりに取り組む。日頃から子供の見守りや信頼関係の構築等に努め、子供が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。日記やノートの記述等を通して、日頃から子供とのコミュニケーションを図るとともに、定期的なアンケート調査等を行うことで、子供がいじめを訴えやすい環境を整え、いじめの実態把握に取り組む。

○アンケート調査は次のように実施する。

ア 実施時期・実施回数

・定期アンケート調査：年3回（6・11・2月）

※臨時アンケート調査は、必要に応じて随時行う。

イ 実施方法・検証

・進め方について「いじめ対策コーディネーター」から説明する。

・学校で実施する。

・回収後その日のうちに、教職員が記載内容を確認し、速やかに「校内いじめ対策委員会」に報告する。

・必要に応じて、速やかに個別面談を実施する。

※アンケートの記載内容や対応について校長が確認する。

ウ 保存

・記入の有無に関わらず、5年間保存する。

○個人面談は次のように実施する。

ア 実施時期・実施回数

・定期個人面談：6月の定期アンケートの後に全員実施する。

前期末及び年度末は必要に応じて実施する。

※臨時の個人面談は、必要に応じて随時行う。

イ 実施方法・検証

- ・教職員が得たいじめに関する情報は、速やかに「校内いじめ対策委員会」に報告する。

ウ 記録の保存

- ・教職員が得た情報を5年間保存する。

- アンケート調査や個人面談において、子供が自らSOSを発信すること及びいじめの情報を教職員に報告することは、子供にとっては多大な勇気を要するものであることを教職員は理解し、子供からの相談に対しては、丁寧かつ迅速に対応する。
- 「校内いじめ対策委員会」を定期的で開催し、いじめに係る情報共有を適切に行う。
- 教育委員会と連携して、子供がインターネット上のいじめに巻き込まれていないかどうかを監視するネットパトロールの活用を図る。

(4)いじめに対する措置

教職員は、いじめ、又はいじめの疑いがある行為を確認した場合には、直ちにいじめを受けた子供やいじめを知らせてきた子供の安全を確保した上で、次のように対応します。

- 教職員がいじめを発見し、又は子供や保護者等からいじめの相談を受けた場合には、速やかに、「校内いじめ対策委員会」に対しいじめに係る情報を報告し、学校の組織的な対応につなげる。
- 教職員がいじめの相談を受けたり、子供がいじめを受けていると思われたりするときは、直ちに教育相談や事実確認を行う。遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止める。子供や保護者から「いじめではないか」との相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴する。ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの確に関わりを持つ。
- 教職員は、いじめに係る情報について、5W1H（いつ、どこで、誰が、誰と、何を、どのように）を適切に記録する。
- 「校内いじめ対策委員会」において情報共有を行った後は、事実関係を確認の上、組織的に対応方針を決定し、いじめを受けた子供、いじめを知らせてきた子供を徹底して守り通す。
- いじめが確認された場合は、いじめを受けた子供には、安心できる場を確保し、いじめを行った子供には、いじめをやめさせ、再発防止に努める。「校内いじめ対策委員会」が中心となって、いじめを受けた子供とその保護者に対する支援、いじめを行った子供とその保護者に対して指導や助言を行い、継続的に話し合っで見届ける。いじめを行った子供に対しては、本人の人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応について、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。
- 犯罪行為と認められるいじめがあったときは、警察と連携して対処していく。子供の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがある場合は、直ちに警察に通報し、適切な援助を求める。
- 校長及び教職員は、子供がいじめを行った場合であって教育上必要があると認めるときは、子供に対して訓告や叱責等を加えることができる。
- インターネット上のいじめが発見された場合は、書き込みや誹謗中傷等の削除や不適切な使用に対する指導を行う。必要に応じて教育委員会や関係機関（警察署、法務局等）の協力を求める。
- いじめに対する措置の結果を、「いじめ認知報告書」で教育委員会に報告する。

(5) 関係機関との連携

いじめの未然防止、早期発見、早期対応のために、関係機関と適切に連携を図り、対応します。

- 「校内いじめ対策委員会」は、必要に応じて心理や福祉の専門家（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）等の参加について協力を求める。
- 「校内いじめ対策委員会」が得たいじめに関する情報を所定の様式に記載し、月に1回、教育委員会に送付する。
- 日頃から所管警察署や相談機関等と情報収集や協力体制を確立し、いじめが起きたときには、状況に応じて連携し、早期対応に努める。
- いじめに関する相談を受け付ける機関として、教育総合支援センターや家庭児童相談室（教育相談員）、いじめ相談専用ダイヤル等を子供や保護者に紹介する。

(6) 学校における教育相談体制の整備

心理、福祉に関する専門家（スクールカウンセラー等）の活用等、子供、保護者、教職員に対する相談体制を整備します。家庭や地域等とも連携しながら、いじめを受けた子供やいじめについて報告した子供の気持ちを最優先に受け止め、子供の気持ちに寄り添って、いじめの相談を行います。

- 子供が安心してSOSを発信できるように、子供を取り巻く大人たちは、いつでもどこでもSOSを受け止めるようにする。
- いじめを受けた子供とその保護者に対しては、いじめによって傷ついた心や体の回復と安心な学校生活を送ることを支援し、継続的に見届ける。
- いじめを行った子供とその保護者に対しては、本人の人格の成長を旨として、指導や助言を行い、継続的に見届ける。

(7) 教職員の資質向上のための研修会や校内OJTの取組

教職員のいじめへの感度を高め、組織的かつ実効的にいじめの問題に取り組むために、校内研修を進めます。

- 「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」「いじめ対応の手引き」に示されたいじめの未然防止、早期発見、措置について理解を深める。
- 教育委員会主催の生徒指導研修等の内容について、校内でも周知を図る。
- 定期的なアンケート等に記載された内容や子供や保護者からの相談について、複数で確認し、対応を協議したり進捗状況を共有したりする。
- 事例研究等いじめに関する研修を行い、未然防止、早期発見・早期対応の視点から成果と課題を明らかにし、取組の改善点について話し合う。
- いじめを行った子供が抱える問題を解決するための具体的な対応方針について学ぶ。

(8) いじめが「解消している」状態

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできません。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があります。ただし、これらの要件が満たされている場合であっても、必要に応じ、他の事情も勘案して判断するものとします。

- ①いじめに係る行為が止んでいること（3か月を目安とする）
- ②いじめを受けた子供が心身の苦痛を感じていないこと

(9)「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」の公表と説明、評価・見直し

- 「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」を、ホームページ等で公表する。
- 入学時や各年度の開始時に、「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」について、子供、保護者、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)等に説明する。
- より実効性の高い取組を実施するために、「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」が、学校の実情に即して適切に機能しているかを「校内いじめ対策委員会」を中心に点検し、必要事項を見直す。
- 「浜松市立花川小学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況を評価し、評価結果を踏まえ、学校におけるいじめの防止等のための取組の改善を図る。

3 地域や家庭の役割

(1)地域の役割

- いじめの未然防止の対応や早期発見のため、地域と適切に連携し、対策を推進します。
- 地域の人たちが、地域で育つ子供に積極的に関わりを持ち、温かい気持ちで接することができるように、学校の情報を適切に発信する。
 - 家庭、学校、地域が連携し、より多くの大人が子供の悩みや相談を受け止めることができるようにする。PTAや学校運営協議会(コミュニティ・スクール)、地域の関係団体との連携の促進や、地域に存在する青少年健全育成会や地域パトロール等が、家庭・学校と組織的に連携・協働できるような体制を構築する。

(2)家庭の役割

子供が社会の一員として自立してくためには、家庭での教育が重要な意味を持ちます。いじめ防止対策推進法には、保護者の責務が示されています。

「保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、その保護する児童等がいじめを行うことのないよう、当該児童等に対し、規範意識を養うための指導その他の必要な指導を行うよう努めるものとする。」(いじめ防止対策推進法第9条第1項)

また、子供にとって家庭は、ありのままの自分を出すことができる安心できる場です。従って、家庭の役割としては、以下のようなことがあります。

- 「ルールやマナーを守ること」を子供に教える。
- 子供からいじめの相談を受けたら、学校へ通報するなど適切な措置をとる。
- 子供との触れ合いや対話を大切にする。子供のありのままを受け止め、「あなたの味方だよ。」と子供が安心感や信頼感で満たされるように努める。
- 日頃の対話や言動等から、いじめ等を背景とした子供のちょっとした様子の変化を見逃さず、学校や地域と連携して、いじめの早期発見に努める。
- インターネット上のトラブルについては、学校以外の場で起き、学校では把握できない場合が多い。子供に携帯電話等を使用させる場合には、保護者として責任を持って子供の使い方や様子に注意を払う。
- 子供がいじめを行ったことが分かった場合には、事実を理解した上で、以下のような視点を持ち、学校と協力して指導する。
 - ア 子供に、いじめは人格を傷つけ、生命、身体又は財産を脅かす行為であることを理解させ、自らの行為の責任を自覚させる。
 - イ 子供のいじめの背景にも目を向け、いじめの背景にあるストレス等の要因の改善を図るとともに、ストレスに適切に対処できる力を育むなど、いじめを行った子供の健全な人格の発達を考える。
 - ウ いじめの状況に応じて、いじめを行った子供が、学校等で心理的な孤立感・疎外感を受けていないか配慮する。

第3 重大事態への対処

いじめの重大事態が発生した場合(いじめにより重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。以下同じ。)、学校は、事案について直ちに教育委員会に報告します。

教育委員会又は学校は、速やかに事案の事実確認を行い、「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」(令和4年9月改定)及び「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン(平成29年3月文部科学省)」により適切に対応します。

1 重大事態の意味

重大事態とは、次のような場合をいいます。

(1) 生命心身財産重大事態

いじめにより、子供の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

- ア 子供が自殺を企図した場合
- イ 身体に重大な障害を負った場合
- ウ 金品等に重大な被害を被った場合
- エ 精神性の疾患を発症した場合

(2) 不登校重大事態

いじめにより、子供が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき

※「相当の期間」とは、年間30日を目安とする。ただし、子供が一定期間連続して欠席しているような場合には、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手する。

※欠席が続き、当該校へは復帰ができないと判断し、転学した場合、重大事態の目安である30日には達していなくても、不登校重大事態としての対応を視野に入れる。

(3) 子供や保護者からの申立て

子供や保護者から、いじめにより重大な被害が生じたという申立てがあったとき

2 重大事態の調査組織

教育委員会が、事案の調査を行う主体を学校と判断し、学校が主体となって調査を行う場合の組織は、次のとおりとします。

○学校に設置されている「校内いじめ対策委員会」に第三者を加える。

○教育委員会が必要な指導や適切な支援を行う。その際、必要に応じて、専門家チームの助言や支援を求める。

なお、子供の命にかかわる重大事態が発生した場合には、精神保健福祉センターと連携し、心の緊急支援を同時に行っていきます。

3 事実関係を明確にするための調査の実施

重大事態に至る原因となったいじめ行為が、いつ頃から、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や子供の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

4 調査結果の提供及び報告

調査により明らかになった事実関係(いじめ行為がいつ、誰から行われ、どのような態様であったか、学校がどのように対応したか)について、いじめを受けた子供やその保護

者に対して説明します。情報の提供に当たっては、他の子供のプライバシー保護に配慮するなど、関係者の個人情報に十分配慮し、適切に提供します。調査結果について、学校は教育委員会に報告します。

5 その他の留意事項

重大事態が発生した場合には、関係のあった子供が深く傷つき、学校全体の子供や保護者や地域にも不安や動揺が広がることがあります。時には事実に基づかない風評が流れたりする場合もあるため、子供や保護者への心のケアと落ち着いた学校生活を取り戻すための支援として、いじめに直接かかわった子供だけでなく、身近にいじめがあり、またいじめを止めることができなかつたために心身の苦痛を感じてしまう子供や保護者並びに教職員に、カウンセリング等を行うことができる体制を整備します。予断のない一貫した情報発信、個人のプライバシーへの配慮にも留意します。

花川小学校ボランティア活動予定と実績(令和4年度)

令和5年2月8日

活動内容		令和3年度実績	令和4年度予定と実績											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
図書(読み聞かせ、読書週間、本の修繕)		隔週金曜日に実施 13:40~13:55 13:30集合	隔週金曜日に継続して読み聞かせ実施して行きます。新しいメンバー募集中!!											
花壇	草取り・水やり	毎月第4金曜日 9:00~10:30 冬だけ午後から	2022/4/22 9:00-10:30	5月19日 14:00- 16:00	-	7月29日	8月26日	9/30 臨時草取 り	10月20日	-	12月23日	2/1 14:00- 15:30	-	3/22 14:00-
	花植えを子供たちと 一緒にやります	5/28:花植え、 10/29:球根植え		6/10 13:05- 13:20	子供たちと花植えをする				10/21 13:05- 13:20	子供たちと球根植えをする				
安全ボランティア 登校の子供たちの安全を見守る		長年継続3名	4/6(水)一学期始業式、4/7(木)入学式				12/21(水)二学期終業式、1/6(金)三学期始業式							
		新規4名	令和4年度:5名となる			7/21(木)一学期終業式、8/29(月)二学期始業式			3/16(木)三学期終業式、3/17(金)卒業式					
プール掃除		5/13(木) 1400~15:30	5/23(月)14:00-16:00 令和5年度からは、日曜日実施を検討(消防団の皆さんが参加しやすい)											
グラウンド整備	土入れ	緊急事態宣言のため、実施できず	グラウンド整備:作業しやすい、参加しやすい					9/19(金)18:30-19:30						
	土入れ&ダストカーマ散布	雨でグラウンドコンディションが悪く、中止	日曜日の昼間実施も検討する。					12/9(金)18:30-19:30						
学校行事支援	幼小合同運動会	9/25(土) 8:25~11:00							10/1(土)8:00-11:30					
	夢いっぱい発表会	11/27(土) 9:00~10:40							11/26(土)9:00~11:00					
	持久走記録会	12/16(木) 9:10~10:10							12/14(水)9:10-10:10					
家庭教育講座	全児童とその家族	10/20(水) ペットボトルで 育てるイチゴ: 竹村久生先生	6/16(木)14:30-15:30 元気な体を作るコツ:袴田さとる先生											
			10/19(水)14:30-15:30 フラワーデザイン「ハーバリウムを作ってみよう」三澤純子先生											
親子レクレーション	全児童とその家族	5/16(日) けん玉	5/15(日)9:00-10:30 運動が今よりもっと好きになるスポーツ講座:今田和成先生											
学習ボランティア			別紙「学習ボランティア」参照											

クラブ活動		令和4年度予定と実績										
4・5・6年生全員:総勢22名 10:40~12:20 の100分間	① 5/11(火) オセロ:岩崎匡明氏	6/7(火)10:45-11:35 県産花きを使ったフラワーアレンジメント:ふじのくに花の都しずおか推進協議会、講師:花徳 池谷友伯(とものり)										
	② 7/13(火)ステンシル:鈴木ゆかり先生	7/5(火)消しゴムハンコ:藤井美枝先生										
	③ 10/14(木)13:40-15:00 科学工作:静大Kids Science Café(浜松市と大学との連携事業)	10/4(火)めざせアスリート:常葉大学井口睦仁講師と学生										
	④ 浜松市の警戒レベル3にアップしたため急遽中止 2/8(火)タグラグビー:浜松学芸高校	2/7(火)バルーンアート:吉田葉津美先生										

花川小学校コミュニティスクールだより 第3号

2023年4月

花川小学校コミュニティスクールが発足してから3年を迎えることができました。

この間、ボランティア活動にご協力いただいた地域の皆様には、心より感謝申し上げます。

また、ボランティア活動をさらに充実させるためには、引き続き、皆様のご協力をお願いします。

なお、新たにご賛同いただける方は、下記まで連絡をお待ちしています。

連絡先 学校支援コーディネーター
佐々木聡

令和4年度の活動報告を掲載させていただきました。

活動内容	実施日	協力者人数
読書ボランティア (読み聞かせ)	隔週1回	6人
交通安全ボランティア (児童の安全確保)	登校日 又は 1回/週	8人
花壇ボランティア (花壇整備・管理)	月1回	5人

令和4年度 学習ボランティア活動状況

実施月日	担当学年	補助内容	協力者
毎週金曜日 8:55～10:35	1・2年生	図画工作	3人
5月 2日(月) 9:00～11:25	1～6年生	1年生を迎える会・ 春の遠足	4人
5月11日(水) 9:55～11:30	1・2年生	校内探検	3人
5月12日(木) 9:55～11:30	2年生	「野菜を植えよう」	3人
5月17日(火) 9:55～11:00	1年生	「朝顔の種まき」	3人
6月 8日(水) 9:55～11:20	1年生	町内探検	2人
6月16日(木) 9:55～11:20	2年生	ユリの花鑑賞	2人
6月21日(火) 10:45～12:20	3・4年生	ジャガイモ堀り・ 野菜の収穫	2人
6月22日(水) 8:00～12:00	4年生	西部清掃工場見学	1人
6月22日(水) 9:55～11:30	2年生	町内探検	4人
6月24日(金) 8:00～12:00	3年生	北部協働センター 訪問	3人
6月29日(水) 9:55～12:20	1年生	花川運動公園散策	2人
7月13日(水) 9:55～12:20	2年生	ひまわり畑・ 花川運動公園散策	3人
9月 2日(金) 8:00～12:00	3・4年生	防災学習センター 訪問	2人
9月28日(水) 9:55～11:30	2年生	うごくうごく・ わたしのおもちゃ作り	3人

9月30日(金) 10:45～11:30	3・4年生	飾りかぼちゃの収穫	2人
10月4日(火) 9:55～11:30	2年生	うごくうごく・ わたしのおもちゃ作り	1人
10月5日(水) 9:55～12:00	1年生	花川運動公園散策	3人
10月12日(水) 9:55～11:30	2年生	うごくうごく・ わたしのおもちゃ作り	3人
10月14日(金) 8:30～13:30	1・2年生	フルーツパーク引率	5人
10月17日(月) 8:55～10:40	1年生	おもちゃ作り	3人
10月19日(水) 9:55～11:30	1年生	おもちゃ作り	2人
10月21日(金) 9:55～11:30	1年生	ユリの花・球根植え	3人
10月25日(火) 9:55～ 11:30	1・2年生	おもちゃパーティ	2人
10月26日(水) 8:00～12:00	5年生	スズキ歴史館	3人
10月31日(月) 8:55～10:40	1年生	おもちゃパーティ	3人
11月 2日(水) 9:55～11:30	2年生	花川郵便局訪問	3人
11月 8日(火) 9:55～13:30	2年生	北図書館訪問	2人
12月 1日(木) 14:05～14:50	3・4年生	書初め学習	1人
12月 6日(火) 14:05～14:50	5・6年生	書初め学習	3人
12月 7日(水) 9:55～11:30	1年生	リース作り	3人

12月 8日(木) 8:00～12:00	4年生	浜松科学館	1人
12月 8日(木) 14:05～14:50	3・4年生	書初め学習	1人
1月18日(水) 9:55～11:30	1年生	花川運動公園散策	3人
1月20日(金) 8:55～11:40	2年生	図画工作	3人
1月20日(金) 8:00～12:00	3年生	博物館	1人
1月23日(月) 10:45～11:30	1・2年生	跳び箱遊び	4人
1月24日(火) 8:05～8:50	1・2年生	跳び箱遊び	3人
1月25日(水) 8:55～9:40	1・2年生	跳び箱遊び	4人
1月27日(金) 8:55～10:40	2年生	図画工作	3人
1月30日(月) 10:45～11:30	1・2年生	跳び箱遊び	3人
2月 2日(水) 9:55～11:40	1・2年生	跳び箱遊び	3人
3月 3日(金) 8:55～10:40	2年生	図画工作	1人

コミュニティスクール(CS)活動の振り返りと今後の取り組み

令和5年2月8日

課題: できたこと、出来なかったこと(令和4年度の活動からの振り返り)

1. 地域への発信

【できなかったこと】

- ①コミュニティスクール便りを定期的に出せなかった。
- ②活動予定や実績を地域の皆さんに定期的に伝える事が出来なかった。

【できたこと】

小学校の活動予定は、「花川ドリーム」で毎月伝えているので、ボランティアメンバーには、活動予定・日程・実施の有無等を開催前に定期的にLineで伝えた。

2. 学習支援ボランティア

【できたこと】

- ①1・2年生の学習ボランティアは3～6年生と比較し、非常に多かった。

⇒多くの祖父母・父母の協力を頂くことができた。令和5年度も継続して祖父母と父母に学習支援内容を伝え、協力をお願いしていく。

- ②学習支援の内容・日程などを担当の先生方から直接聞くことができた。

⇒午後から学校に行くことで、直接先生方と話げできた。令和5年度も継続し、先生方と直接話をし、Lineやメールで情報をこまめに伝えていく。

改善点と活動予定

	令和4年度		令和5年度												4	
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1. 地域への発信	皆さんのアイデアを頂きたい		学校運営協議会を1回増やし、PTA・先生方・協議会メンバーとの情報交換会をし、地域への発信をしていく。													
2. 学習支援ボランティア: 計画と募集をする																
内容・日程を先生方と打合せして決める (一学期、二学期、三学期、臨時)			○(一学期)					○(二学期)					○(三学期)			

(様式1)

令和5年5月24日

浜松市立花川小学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 武田 則治 様

浜松市立花川小学校運営協議会
会長 高倉 学

夢育やらまいか事業に対する意見書

令和5年5月23日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

記

1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

- ① 校内環境の改善を図るため、広い花壇の整備が必要である。また、この環境整備を地域と児童の触れ合いの場としたい。
⇒地域のボランティアの協力を得て、児童と教員が花壇を整備する。
- ② 子供たちが今まで以上に本に親しむ機会を増やすために、読み聞かせボランティアの活動を充実させたい。
⇒関係図書を購入し、読み聞かせ後に学校図書館で貸出を行う。